

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	グループホームぬくもり		
所在地	岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45-22		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうの言葉がいつばいの施設を目指す。 ・利用者が自然に表情を出せる様な対応に心がける。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&J_gyosyoCd=0393100128-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>共有スペースでは職員と入居者が一体化して穏やかな雰囲気の中で過ごしている。職員全体が「ありがとう」の精神で意思を統一し、より良いケアを目指している姿勢が窺い知れる。</p> <p>周囲に住宅が散在し、三陸鉄道野田玉川駅と地区公民館に隣接する恵まれた環境にある。開所間もないこともあり、地域との付き合いに踏み出していない状況がある。運営推進会議をまだ開催出来ていないなど課題もあるが、申し送りノートやケース記録もよく整理され、雰囲気も明るく、より良いサービスを提供するための工夫や意気込みが感じられる。また、地域の高齢者を週1回程度、事業所に招待して、食事を開催したいこと、あるいは避難訓練等に消防団の協力を得たい等、具体的事柄を掲げ、地域との交流を進めたいと考えており、これから歴史を刻もうとする運営に期待したいと考える。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	支援に迷いがある場合は理念を見て考えるようにし、定例会議に於いても毎回理念の確認をし、内容が利用者に反映されているか確認している。	職員は、常に理念に基づいて実践につなげている。そしてそれは「ありがとう」という言葉に集約されている。理念3項目のうち2項目は職員が考え、1項目は管理者が考えたものである。グループ棟入口及びリビングに掲示し、共有しようとしているが文言が長いことから、今後見直しも考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へは時期が限られるが出かける、買い物へは利用者の希望も聞きながら継続対応している。地域の一員としての活動は、草とり(駅周辺)をしてきた	地域の一員として活動していても、地域へのあいさつや事業所の紹介等の部分が手薄であった。地域との関わりは、今は、駅周辺の花壇への水やりや、保育園の運動会、発表会に参加する等にとどまっている。	地域との協力は必要なので積極的に地域と関わり、理解と協力をもらえるよう働きかけていくことに期待したい。今後、具体的な計画等を立て、展開していくことを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まったく行われていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できないでいる	開所当初一回開催したのみである。計画では2カ月毎の開催となっている為、早急に親睦会を兼ねて開催する予定である。	運営推進会議は、業務の実際や利用者の状況等を報告したり意見交換をすることで、サービス向上に活かしていく大切な会議となる。今後は、開催について2ヶ月に1回の開催をしていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	野田村の居宅支援事業所とはケアマネを中心に連携は取れている。地域ケア会議においても施設の提供はされていて、関係者の情報収集の一躍を担っていると考え。	毎月、地域ケア会議を持ち、情報交換をして意思統一を図り、サービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所時から身体拘束は絶対行わない事を伝えてきた、困難事例であっても、拘束と言う発想は出ないと確信している、夜間の施錠は継続する予定	身体拘束は厳に禁じており、職員にも周知し、共通理解のもとにある。日常的に、利用者の行動に制限をすることなく、見守りにより対応している。不測の事態に備え、勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在の利用者を観ている限り、虐待に繋がるようなケース、介護困難事例、介護者からの解決に困っている状況等の相談は無い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基礎知識としてはある程度持っているつもりであるが、必要と思われる対象者が存在しない為念頭に無い事も事実である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載されている内容を説明、自宅に持ち帰っていただき複数の家族から確認が得られるように説明している。不明な点や契約書以外の不安な点に対する質問はその都度答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2月時点では行っていないが年度計画に於いて実施予定	家族との話し合いを2回実施しているが、実際に運営に反映するところまでには至っていないのが現状となっている。今後は、積極的に家族の意見、要望を反映させる機会を設けていこうと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	声までその機会を設けていない	管理者は、職員と形式にとらわれず頻繁に話し合い対話し、理念に基づいて試行錯誤しながらみんなでより良い運営をしようと試みている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間に関しては話し合いながら容易に変更は可能		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には業務に支障が出ない範囲で参加している。仕事を通じてのトレーニングは細かく行っていると考えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会からその様な計画の提示はあったが、現在実行に至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前と入所時に本人、家族の困っている事をお伺いし、スタッフへの口頭伝達やプランで対応するようにしている、特に利用開始後短期間は不安の解消への気配りは顕著に観られる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15に同じであるが殆ど要望は無かった		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入所がまず必要とするサービスであるケースが殆どで利用後本人の生活状況を観ていただき要望等聞いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの支援に当たっては、介護者に対し、訓練や指導すること無くても自然とその様になっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会だけに終えず、外出や外泊の機会が持てるように家族面会時にお話する、誕生会への出席や行事への参加の案内等行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暖かい時期はふるさと訪問として、自宅や周辺へ車で出かける機会を持っている。	車で、利用者個々の家を廻って、家や周辺を見て頂き、安心に繋げている。買い物や散歩は、毎日のように行い、希望に合わせて支援している。また、希望により散髪は馴染みの理容店を利用する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうしの関わり合いの場面には、介助者が仲介する場面が多くなっている、意識してその様にしている場面も多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例としてなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中や生活の中からはその様な要望や思いを訴える事は無かった、聞き取りの場面でも判らないと訴える	職員の努力により、オムツ使用の生活ではなくなったこと、「ありがとう」の声かけは、思いやりや希望につながっていると実感している。日常の会話から一人ひとりの意向を聞いている。思いを伝えることが困難な利用者には、態度等から要望を把握し、それをサービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族へは入所時にこれまでの生活が継続できる様に入所時の、持ち込む物に制限が無い事を伝えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方に関しては全員に対して把握はできている、有する能力に関しては、介助者側の支援に対する不安がある様子も伺える		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースとしては多くないが家族を話をする事はある、介助者からのアイデアは時々発言がある	職員は日々の記録の中にアイデアや疑問点などをきちんと記録している。これをもとに、会議もよく開催され、職員のアイデアも活かしてサービス計画の作成、見直しが進められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアノートを活用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外のサービスとは何か管理者の認識が不十分		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物やバスレクに出かける程度		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への送迎、必要時に情報提供、困った時の対応のための指示をいただいている。その都度医師と連携は取られている、又嘱託医への相談及び指示からもかかりつけ医への情報も行っている。	通院は原則家族にお願いしており、かかりつけ医を受診している。その際に必要な情報を提供し、報告を受けるなど医師との連携ができています。また、理事長が医師で、2週間に1回健康状態をチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師との連携は行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これまでに対象者は無いが、当施設前の業務から考えてもそのノウハウは熟知し緊急時の対応も含めて不安は持っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前施設でも看取り委員会の構成員であったし、マニュアルの理解、活用方法は理解している為、対応が必要である事を予測した場合に早めに活動していく	重度化した場合や終末期の対応については、マニュアルを作成し、医療が必要となった場合や重度化の場合は、病院や併設する特養ホーム等へ移る場合についてなどの説明をし、家族の理解も得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や救急搬送の手順や方法は把握できる様にした		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自の避難訓練を行い、避難路の確保や避難経路は頻繁に意見交換を行い、避難経路や避難場所は全員が把握している	マニュアルに沿って9月に、日中の火災訓練を実施した時は、地域の参加を求めなかったが、4月には、地域の参加も要請し、一緒に訓練する計画を立てている。職員居住地で、久慈市からの通勤者は、対応できないことが分かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーに意識して声がけはしていないが「ありがとう」はホームの言葉として位置づけ、確実に実践しその成果も出ている	声がけする時など、不快感を感じさせないよう、気配りをしている。そのことが、「ありがとう」という言葉で集約されている。自己評価では、プライバシーに意識した声掛けはしていないとあるが、実際は、利用者などの話をするときも、他の利用者の耳に入らないよう会話が持たれるなど、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務はある程度作っているが、声がけは、本人が選択できるようにする事を徹底統一している・例:「お風呂に入れますけどどうしますか」等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に食事は一緒にの時間に声がけしているがその他の時間は自分で判断している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の整容以外特に取り組んでいない、来年度の活動目標では設定している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	趣向の聞き取り、残食の把握と本人からの聞き取りでメニューの個別変更は毎日あり、手伝いも依頼している	献立は、利用者の要望を聞きながら、職員が1か月毎の当番で作成し、米飯の固さなど嗜好に合わせている。管理者が元料理人ということもあり、味見を徹底し、おいしい食事を提供している。利用者からも出来ることを手伝ってもらい、個別メニュー対応もするなど食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重の把握と個別の水分不足量、趣向、食べ方の癖、特に残すような調理の仕方等は、介助者全員把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声がけは統一対応、、必要者は確認、全介助者は1名		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のポータブルトイレ使用者は2名、オムツ使用者は0名、ほぼオムツ状態からリハビリ、トイレ使用への移行者、1名、失禁の把握、排便の管理は行き届いていると自負している	自尊心に配慮し、状態に応じ、寝具に鈴を付けるなど職員も、敏感に察知出来るようにし、トイレでの排泄を大切に誘導している。自立支援を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつの変更、必要水分摂取量の把握、下剤の検討を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今入浴するかは、本人が決めている。又今日、何番目に入浴したいか等も聞き取りしている	本人の希望に沿って入浴していただいている。見守りの中、足浴も楽しんでもらうこともある。足浴を続けているうちに、自発的に手洗いの習慣も付くようになった。入浴に関しても足浴の習慣づけにより、拒否の傾向の方も、それがなくなってきた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は本人の判断に任せ、特に入眠の促しはしていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各職員が細かく確認し、定期受診後は職員全員が確認する様に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換や能力維持の為の散歩は行っているがその他は特に対応していない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	周辺症状の出現から外へ行きたい、出かけると訴えた場合等できるだけ対応している。暖かい時期は他施設と比べても非常に外へ出かける頻度は多いと思う(ほぼ毎日)	一人ひとりの習慣や希望にそって支援し、積極的に外出している。厳冬期を除いて、ほとんど毎日散歩のほか、自宅周辺や買い物に出かけている。また、自宅に帰ろうとしたり、出かけようとした際は、拒否や否定等せず、さりげなく同行し、安全を確保するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時は認知症もある事から、無くなる事も予測していただき、金額に関しては本人と家族の判断に任せ所持金の確認は口頭でのみ行う、買い物に出かける機会を持っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば殆どの時間帯でも対応している、手紙のやり取りの制限は行っていないが事例としても無い、絵手紙の発想は職員から出ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地に関しては本人の判断である、不快や混乱を招く様な点に関しては対象とする事が無いと思われる	他事業所と併設されており、玄関から居室まで道筋は若干、複雑で距離があるが、新しい事業所でもあり、新空間を作り出していて、居心地よく過ごせるように工夫もしている。利用者の多くがリビングでくつろいでいる様子から居心地がいいことが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々で一緒にいる光景は毎日ある、ただ他者の目線から遮る物など無い為空間と判断できるかは疑問		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族へは入所時にその様なことを説明し、自由な判断に任せている	使い慣れたものが置かれ、衣類は低い場所にハンガーなどにかけて、取りやすくするなどの工夫がされている。また、部屋によってカーテンや壁の色が違い、写真や絵も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ使用、に関して対象と考える、その他は特になんと思われない		